

日本歯周病学会第5回信越・北陸地区臨床研修会報告

主催：特定非営利法人 日本歯周病学会

共催：一般社団法人 福井県歯科医師会

大会長：近藤 貢（一般社団法人 福井県歯科医師会会長）

実行委員長：多部田 康一（新潟大学医歯学総合研究科 歯周診断・再建学分野教授）

運営事務局：新潟大学医歯学総合研究科 歯周診断・再建学分野内(担当：野中 由香莉)

日時：令和6年3月24日（日曜日）10：00～15：30

会場：福井県歯科医師会館

メインテーマ：「歯周病の診断・治療のアップデート-国民皆歯科健診を控えて-」

プログラム

- ・教育講演Ⅰ「歯周治療のために欠かすことのできない適切な歯周検査と診断」
長崎大学病院口腔管理センター教授 鵜飼 孝
- ・教育講演Ⅱ「歯周病新分類の解釈と臨床への応用」
九州歯科大学口腔機能学講座歯周病学分野准教授 臼井 通彦
- ・教育講演Ⅲ「歯周治療の基本と関連背景のアップデート」
新潟大学大学院医歯学総合研究科歯周診断・再建学分野教授 多部田 康一
- ・歯科衛生士教育講演「健康寿命の延伸とQOLの向上をめざして～歯周基本治療の力～」
東京都 長谷川歯科医院歯科衛生士 川崎 律子
- ・ランチョンセミナー 「再生療法を成功させるポイント」
愛知学院大学歯学部歯周病学講座教授 三谷 章雄

令和6年3月24日、福井県福井市において第5回日本歯周病学会信越・北陸地区臨床研修会を開催いたしました。研修会の1週間前に北陸新幹線が敦賀駅まで延伸されたタイミングであったため、大会長曰く「100年に1度」のお祭りムードで、福井駅周辺は大変に賑わっておりました。

本臨床研修会は、「各地域の歯周病の予防ならびにその治療の向上を通じて国民の口腔保健に寄与する」目的を達成するための学会活動の一つとして、歯周病学・歯周治療学に関する新しい情報や技術、ガイドラインに沿った治療の啓発を行うため、全国各地にて開催されてきた研修会です。今回は福井県歯科医師会との共催事業として開催され、近藤貢福井県歯科医師会会長、同会執行部関係各位、同会事務職員の方々の多大なご協力により、滞りなく準備・運営を行うことができました。開催にあたり1月の石川県能登地方を震源とした地震の影響が懸念されましたが、研修会当日は福井県内のみならず、北陸近県および関西地区からも参加をいただき、歯科医師46名、歯科衛生士44名、歯学部学生1名の計91名のご参加をいただきました。

今回の臨床研修会は「歯周病の診断・治療のアップデート-国民皆歯科健診を控えて-」をメインテーマとし、国民皆歯科健診制度の開始後に予想される歯周病患者さんの来院増加を前に、歯周治療に関して基本的な内容を確認し、歯周病学・治療学に関わる内容をアップデートする機会として、5名の先生方からご講演をいただきました。

当日は、大会長である近藤貢福井県歯科医師会会長および沼部幸博日本歯周病学会理事長による開会のご挨拶に始まり、鵜飼孝先生の教育講演Ⅰでは、歯周治療に必要な検査や診断を正しく行うためのポイントについて、日常臨床をステップアップさせるTipsに満ちた内容にてご講演をいただきました。教育講演Ⅱでは臼井通彦先生より、2017年に改訂された歯周病の新分類について、その背景を含めた解説の後、実際の臨床の場においてどのように活用すべきかについて症例を通じてご説明をいただきました。教育講演Ⅲにおいては、多部田康一先生から「歯周治療の基本と関連背景のアップデート」と題して、歯周病の病因論や診断に関連する近年の理解について説明がなされ、歯周基本治療にて押さえるべきポイントについて解説がありました。川崎律子先生の歯科衛生士教

育講演では“病態を診る目”と“人を見る目”の大切さが述べられ、歯周治療における歯科衛生士の役割の重要性を再認識する内容でした。ランチョンセミナーは科研製薬株式会社のご協賛のもと行われ、三谷章雄先生から、愛知学院大学病院での臨床例を提示するとともに、歯周組織再生療法を成功させるための具体的なポイントが示されました。リグロス®の調製方法を参加者が実際に体験し、活発な意見交換が行われました。最後に、本研修会の実行委員長兼臨床研修委員会委員長である多部田康一先生の閉会挨拶により、盛会のうちに幕を閉じることができました。ご参加くださった先生方、ご協賛いただきました企業各社様、また福井県歯科医師会をはじめ本研修会に関係いただいたすべての先生方に心より感謝申し上げます。

